今月の御教え

神は人間の本体の親である。信心するのは親に孝行するのと同じようなものである。

……「天地は語る」第四条……

解説

『本体』とは『そのものの本当の姿、形』ということになります。さすれば『神様は私達人類の本当の親』ということであります。そうして信心することは親に孝行することと同じであると仰せられております。

皆さんを産み苦労して育ててくれた親が、年齢を重ね、体力や気力が衰えてゆけば、助け、支えてあげて「親に喜んでもらいたい」と思うのは自然の情でありましょう。それと同時に『神様に喜んで頂く」のが信心であります。

そうして「神様に喜んで頂く」には、神様の願いを現わしてゆくことであり「神人あいよかけよの生活運動」の『願い」を実現していくことであります。

来年は立教百六十年の御年柄であり、又、西条教会においては二代教会長大先生の三十年、夫人十五年の御年柄でもありますので、信奉者一人一人がこの願いの実現のために信心の稽古に努めようではありませんか。